



# 知りたい

## 地域医療

町立下川病院

臨床検査技師

猪

荻

冬

樹



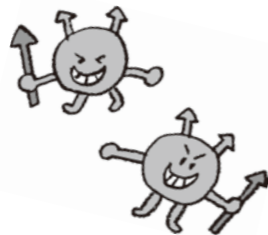
### 秋から冬に流行する感染症について

感染症の元になるウイルスは気温と湿度が低いときに活発に活動します。夏が過ぎるとウイルスにとって過ごしやすい環境が訪れることとなります。秋から冬にかけての季節は感染症が流行し始める時期です。前段階で予防できることは準備し、予防対策を行い感染症から身を守りましょう。今回は感染症の一部を紹介したいと思います。

マイコプラズマは、年間を通してみられますが冬に増加する傾向があります。呼吸器感染症で、発症している人や菌を持っている人の口や鼻から菌が排出され

RSウイルスは、ウイルスの伝播でおこる呼吸器感染症です。風邪症状と乾いた咳が特徴です。多くの場合は軽い症状で済みますが、重くなると咳がひどくなり呼吸が苦しくなることがあります。乳児の場合は粘りのある鼻水で鼻詰まりの症状が強くなる場合があります。気管支炎や肺炎などを起こす場合があります。予防は手洗いや手指消毒、うがい、マスク、子供が触れる物品の消毒(アルコール消毒)などが有効です。

ますので知らないうちに菌を取り込んで感染します。乾いた咳が長い期間続いてひどくなつていきます。予防は手洗いや手指消毒、うがい、マスクが有効です。



ノロウイルスは感染性胃腸炎のひとつで、食べ物からの感染、人からの感染などさまざまな経路で感染します。吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱の症状が現れます。症状が出ない人もいます。感染してしまったら、脱水症状を防ぐために水分をこまめに取り安静にしましょう。水分が取れない、嘔吐が激しい場合

溶連菌感染症は学童に多く、発熱と全身倦怠感、のどの痛み、嘔吐を伴うこともあります。舌にイチゴのようなブツブツができる「イチゴ舌」の症状も現れます。重症化した場合は全身に赤い発疹が広がる「猩紅熱(しようこうねつ)」になることがあります。発症している人や菌を持っている人の口や鼻から菌が排出されますので知らないうちに菌を取り込んで感染します。予防は手洗いや手指消毒、うがい。タオルなどの共用は止めましょう。

は病院を受診しましょう。回復した後もウイルスを排出し、知らないうちに自分が感染源になっているかもしれません。10日間くらいは注意が必要です。ワクチンはありません。予防は手洗いし、清潔なタオルで拭きましょう。食品を十分に加熱しましょう。調理器具も熱湯や漂白剤で消毒するとよいでしょう。胃腸炎はこのほかにロタウイルス、サポウイルス、アデノウイルスなどがあります。



風疹は発熱、発疹、リンパ節腫脹があります。「三日はしか」とも言われています。2018〜2019年の風疹患者数は2013年の流行以降に次ぐ多い報告となっています。妊娠中の感染は胎児に感染する可能性があります(妊娠中はワクチンを受けられません)30〜50代の男性で風疹に罹ったことがなく、ワクチンを接種したことがない人はワクチンを受けておくことをお勧めします。風疹はワクチン接種で予防可能と言われています。



病原体はどんなところにもいます。絶滅させることは不可能といわれています。ですが、注意や予防対策をすることは可能です。手洗いや手指消毒、うがい、マスクなどはいつでもできる予防法です。これからの季節に備えましょう。

#### ■お問い合わせ

町立下川病院

☎・☆4-2039

